



# アンサンブル デイマンシュ

## 第 86 回演奏会

2020 年 2 月 15 日(土)

府中の森芸術劇場 ウィーンホール



### 【プログラム】

エーベルル 交響曲変ホ長調 Op.33

- 第 1 楽章: Andante sostenuto: Allegro con fuoco e vivace
- 第 2 楽章: Andante con moto
- 第 3 楽章: Menuetto: Allegro vivace
- 第 4 楽章: Finale: Allegro assai

♪ 休憩 ♪

ベートーヴェン 交響曲第 3 番変ホ長調「英雄」Op.55

- 第 1 楽章: Allegro con brio
- 第 2 楽章: Marcia funebre: Adagio assai
- 第 3 楽章: Scherzo: Allegro vivace
- 第 4 楽章: Finale: Allegro molto-Poco Andante-Presto



## 【プロフィール】

指揮 平川 範幸



1987年福岡県出身。福岡教育大学音楽科卒業。

上野学園大学研究生〈指揮専門〉にて下野竜也、大河内雅彦の各氏に師事。桐朋学園大学オープンカレッジにて、黒岩英臣氏に師事。また、パーヴォ・ヤルヴィ、沼尻竜典の各氏の指揮講習会を受講。

これまでに、音楽理論を中原達彦氏に、ピアノを田中美江氏に師事。

2012年度、新日鉄住金文化財団指揮研究員として、紀尾井シンフォニエッタ東京の下で活動する。

その後、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員として、宮本文昭、飯守泰次郎の各氏の下で研鑽を積む。

これまでに、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、千葉交響楽団（ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉）、浜松フィルハーモニー管弦楽団、東京混声合唱団などを指揮する。

また、各地のジュニアオーケストラや学生オーケストラ、吹奏楽団、合唱団を指揮する。

2016年度より、仙台ジュニアオーケストラ音楽監督を務める。



## 演奏会のコンセプト

### ～「英雄」交響曲初演時のプログラムから～

当団は、第83回演奏会(2018.9)でベートーヴェンの交響曲第1番を、第85回(2019.9)で第2番を演奏しました。今回はそれに続く交響曲第3番「英雄」(原題: Sinfonia eroica 以下「エロイカ」という。)を演奏します。この曲を取り上げるのは実に4回目になります。その前プロとして演奏するのは、アントン・エーベルルの交響曲変ホ長調 op.33です。このエーベルルの交響曲は、エロイカが1805年4月にウィーンで公開初演されたときに、そのシリーズの演奏会のプログラムとして同じく初演された曲です。

エロイカは、現代ではベートーヴェンの傑作の一つに数えられますが、初演時には意外にも不評で、かえってエーベルルの方が聴衆に称賛されたと伝えられています。当時の交響曲としてはあまりにも革新的で、かつ50分以上もかかる長大な曲だったことが聴衆に受け入れ難かったのかもしれませんが…。今回はそうした因縁のある二つの交響曲を聴き比べていただきたいとプログラムを企画しました。

エロイカとエーベルルの交響曲が同じシリーズの演奏会で初演された経緯についてはよく分かりませんが、この二つには不思議な共通点がいくつか見られます。どちらも主調が変ホ長調であること、第2楽章がハ短調の葬送行進曲(風)で、しかもよく似た動機が出てくること、第4楽章はどちらも2/4拍子で、主要主題の最初の4小節がモーツァルトの交響曲第41番「ジュピター」の同楽章のように2拍分の4つの音で始まること、などです。それが意図的なものなのか、それとも全くの偶然なのかはミステリーです。

## 【曲目解説】

### ◆エーベルル：交響曲変ホ長調 op.33

アントン・エーベルル(1765～1807)は、日本ではあまり知られていませんが、オーストリアで生まれ、活躍した作曲家です。年代で言うと、モーツァルトの9歳下、ベートーヴェンの5歳上に当たり、モーツァルトに師事した弟子の一人です。モーツァルトの死に際しては「モーツァルトの墓にて」というカンタータを書いて追悼したようですが、この曲の自筆譜は競売にかけられた後に行方不明になったため、どんな曲なのかは分かりません。作品の大半はピアノ曲ですが、交響曲も5曲書いたと言われています。交響曲のうち出版されて近年演奏されているのは、この変ホ長調 op.33のほか、その直後に書かれた二短調 op.34 とモーツァルトの作品とされていたハ長調の3曲のみです。

この変ホ長調の交響曲が作られた経緯等については不明ですが、作曲されたのはエロイカが作曲される直前の1803年前半のようです。シンコペーション(拍をずらすこと)やフォルツァート(一つの音を特に強く演奏し強調すること)を多用したり、コントラバスにチェロを伴わず単独で旋律の断片を弾かせたり、オーケストラの新参者で活躍の少なかったクラリネットを重用したり、トランペットやティンパニに独特の使い方をしたりと、作風は当時の交響曲としてはかなり斬新さに満ちています。

第1楽章 ゆったりとした短い序奏の後、シンコペーションで始まる速い主部が続きます。この主部は、炎のごとく激しさもって(con fuoco)演奏するよう指示されています。全体にシンコペーションとフォルツァートを多用した慌しい曲です。最後はトランペットのファンファーレで締めくくられます。

第2楽章 ハ短調の暗い前半とハ長調の明るい後半の二部から成っています。「葬送行進曲」とは明記されていませんが、葬送行進曲風な曲です。フォルツァートが多用され、ドラマティックなところはイタリア・オペラを想起させます。エロイカの葬送行進曲にもある「ソラシ・ドー」という動機が出てきます。

第3楽章 メヌエットとトリオ 古典派の交響曲のセオリーどおり「メヌエット」と標記されていますが、実質はテンポの速いスケルツォです。トリオは二つあり、二つ目のトリオの後、メヌエットに戻り、コーダに入ります。

第4楽章 フィナーレ 最初の4小節がB-D-F-Aという2分音符の四つの音で始まり、楽章全体にこれが展開していきます。これは師匠モーツァルトのジュピター交響曲の影響と思われます。コントラバスに単独でこの断片を弾かせるところも特徴的です。最後はやはりトランペットのファンファーレで締めくくられます。

### ◆ベートーヴェン：交響曲第3番変ホ長調「英雄」op.55

1802年に第2交響曲を完成させたベートーヴェン(1770～1827)は、翌年には新しい交響曲に着手し、この交響曲を1804年2月頃に完成させます。当初は“Sinfonia grande”(大交響曲)と題され、その下にはナポレオン・ボナパルト(1769-1821)への献辞が書かれていたとされています。しかしこの献辞の部分は、ナポレオンの皇帝即位に激怒したベートーヴェンが消し去ったと伝わっています。写譜師の写した手写譜の表紙を見ると、確かに一部分を削って消した跡が残っています。その部分は穴が開いてしまっていてほとんど読むことは不可能ですが、末尾に“te”の文字がかろうじて読み取れます。これは“Bonaparte”又はイタリア風の“Buonaparte”の最後の二文字と推測されます。

ベートーヴェンはこの曲の出版に当たって、標題を“Sinfonia eroica”(英雄的な交響曲)と改め、“composta per festeggiare il sovvenire d'un grand'uomo”(ある偉大なる人物の業績を称えるために作曲された)と続けています。そのため「英雄」が誰なのかがしばしば議論になっています。そもそもナポレオンが皇帝になったのは、形の上では国民投票で選ばれたからであり、自ら名乗ったわけではありません。したがって、エピソードのようにベートーヴェンが「野心家」として激怒するとは考え難いです。ナポレオンへの献辞を削除し「偉大なる人物」とぼかしたのは、「葬送行進曲」が含まれていたことへの配慮とも考えられます。

第1楽章 長い序奏はなく、冒頭に2発の変ホ長調の主和音が鳴ると、階名で「ドーミ／ドーソ／ドミソ／ドー」という基調和音の音を使った第一主題が始まります。楽章全体にまるで英雄を象徴しているかの如く執拗なスフォルツァンドが多用されています。

第2楽章 葬送行進曲 ハ短調の暗い主部にハ長調の明るい中間部、さらにフーガを伴った展開部が続き主部が再現する展開型の複合三部形式です。冒頭の旋律の裏でうめき声のような前打音を伴ったコントラバスや運命の動機に似た「タタタ／ター」という弦楽器の伴奏が印象的です。

第3楽章 スケルツォとトリオ 冒頭からの緊張感のある pp の伴奏の中、最初は変口長調、続いてへ長調で主要主題が出てきます。この主題は93小節目からの ff のトゥッティで初めて主調の変ホ長調で出てきますが、ここまでは長い序奏とも考えられます。トリオでは3本のホルンが狩のファンファーレを奏でます。

第4楽章 フィナーレ 途中にフーガを伴った変奏曲という交響曲のフィナーレでは珍しい形式です。テーマは劇附随音楽「プロメテウスの創造物」(1801)の終曲からの転用ですが、ベートーヴェンはよほどこのテーマが気に入ったとみえて、オーケストラのための12のコントラダンス(1801)や15の変奏曲とフーガ(1802)というピアノ曲にも転用しています。

(企画・広報部長)



### 【第86回メンバー】

第1ヴァイオリン 久津見真理、三瓶政一、☆時山響子、西川富之、西村 実、本山まり子  
第2ヴァイオリン 相羽あゆみ、石嶺寿子、佐藤克哉、関根佳子、宮本 敦、♪森 未知  
ヴィオラ 柴野かおり、下山純也、♪関口孝司郎、千秋和久、山口 彰  
チェロ 緒方 淳、久津見靖彦、工内智恵、中山憲一、♪三次摂子  
コントラバス 江川博之、♪須賀敬亮

フルート 谷口玲子、徳植俊之  
オーボエ 市川亜理、山口高司  
クラリネット 鈴木千暁、中嶋智子  
ファゴット 越島康太郎、星野未央  
ホルン 大高奈穂子、尾形武一、町田明子  
トランペット 鴨狩公一、藺部晴信  
ティンパニ 星野武徳

☆:コンサートマスター、♪:弦楽トップ

練習指揮 山上孝秋  
トレーナー 戸澤哲夫(東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター)



### ♪ 次回の演奏会ご案内 ♪

日時：2020年9月13日(日)午後  
場所：府中の森芸術劇場 ウィーンホール  
指揮：平川 範幸  
曲目：ルイーゼ・ファランク：交響曲第3番  
ベートーヴェン：交響曲第4番 op.60 ほか



詳細は HP <http://www.e-dimanche.jp/> をご覧ください。

※招待券ご希望の方はアンケートにご記入いただくか HP よりお申込みください。



## 本日のアンコールについて

本日のアンコールは、

**ベートーヴェン：アダージョ・カンタービレ**  
(ピアノ・ソナタ第8番ハ短調「悲愴」op.13～第2楽章)

でした。

原曲はピアノ曲ですが、管弦楽で演奏しました。

